

●暖かい地域でお使いのお客様も必ずお読みください。

⚠ 注意

- 冬期は暖かい地方でも、給水・給湯配管の水が凍結し、破損事故が起こることがあります。こうした事故を防止するために、次のような処置をお取りください。
- 通常は対策その①の方法を行ってください。やむを得ず電源を切る必要がある場合は、対策その②の方法を行ってください。ただし、対策その②を行う場合は機器の通電後に暖房していても、しばらくの間ヒートポンプが運転しない場合があります。その場合はガスで暖房します。
- 凍結による破損の場合は、保証期間内でも有償修理となります。

① お願い

暖房の凍結予防について

・このシステムは、不凍液専用ですが、ヒートポンプは屋外に設置するため、不凍液と言っても凍結の可能性があります。暖房の凍結予防運転が行われますので、融雪用電力のしゃ断器、タンクユニット内蔵しゃ断器、熱源機の電源は OFF しないでください。万が一、電源を OFF してしまっても長期運転しなかった場合は暖房中であってもしばらくの間ヒートポンプが運転しない場合があります。数日経過しても暖房中にヒートポンプが運転しない場合は、当社お客様センターへご連絡ください。

リンナイ(株) お客様センター フリーダイヤル：0120 - 054321

※不凍液については、151 ページの「日常の点検・お手入れのしかた」の項目をよくお読みください。

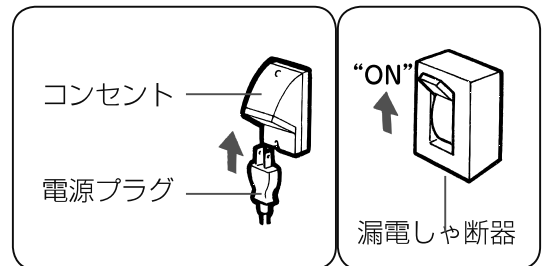
対策その 1 凍結予防ヒータと自動運転による方法

- ガス熱源機には、外気温が下がる（機器周辺の温度が約 3℃以下になる）と自動的に機器内を保温するヒータ（給湯側）と自動ポンプ運転装置（ふろ側）が組み込まれています。自動ポンプ運転を開始すると、台所・浴室リモコンの表示画面には「🔥」表示が、増設リモコンの表示画面には「凍結予防」表示が出ます。
- ヒートポンプユニットは、外気温が下がると循環ポンプが運転してヒートポンプユニットとタンクユニットの凍結を予防します。さらに外気温が下がると、自動的に（低温）沸き上げ運転を開始して凍結を予防します。



■お客様に行っていただきたいこと

- ガス熱源機の電源プラグがコンセントに差し込まれていること・タンクユニットのサービス扉（下）内の漏電しゃ断器が ON であることを確認してください。
 - 電源が切れていますとヒータ・ポンプ・ヒートポンプユニットが作動しませんのでご注意ください。



- 浴槽の残り湯が循環アダプターより 5cm 以上、上にある状態にしておいてください。

- 機器が外気温を感知し、自動的にふろポンプ運転を行います。
- 浴槽の残り湯が循環アダプターより 5cm 以上ない場合は、外気温が凍結する温度になる前に浴槽の水をふやして 5cm 以上になるようにしてください。なお、浴槽の水は浴室リモコンのぬる湯スイッチを押してふやしてください。給湯栓から水をたすと凍結するおそれがあります。

